

B-4 指導案における PISA 型読解力の視点

指導案につけたい力を明記してあります。

1 年算数 「どちらがながい」	2. 考えをもつ	10	長い方はどちらか予想を立てさせる。 <どうしたらどちらが長いか分かるかな> ・並べる ・そろえる <長さを比べるときの約束を見つけよう> となりの子と約束を考える	り組もうとしている。 (発言・観察) ◇ものを比べたときのことを思い出させる。 ・長さを比べるだけでなく、約束事を考えさせる。 ◇約束を見つけたら友達に伝わりやすい表現のしかたを考えさせる。
	3. 考えを 広める	20	・下をそろえて比べる ・上をそろえて比べる ・どちらかそろえて、とびでている方が長い <ながいのどちらかな> まっすぐじゃないものを提示して比べさせ、比べる ときの約束を見つける。 ・まがったままでは本当の長さは分からない ・まっすぐ伸ばす ・結び目をほどく ・はしをそろえる となりの子と考える <形を変えるとどうなるかな>	・前の課題と違うところを見つけさせる。(PISA) ◇前課題の生かせるところは、生かせないところに気づかせる。(PISA) ◇まがったままでは、比べられないことに着目させる。 ◎直接比較のしかたを理解

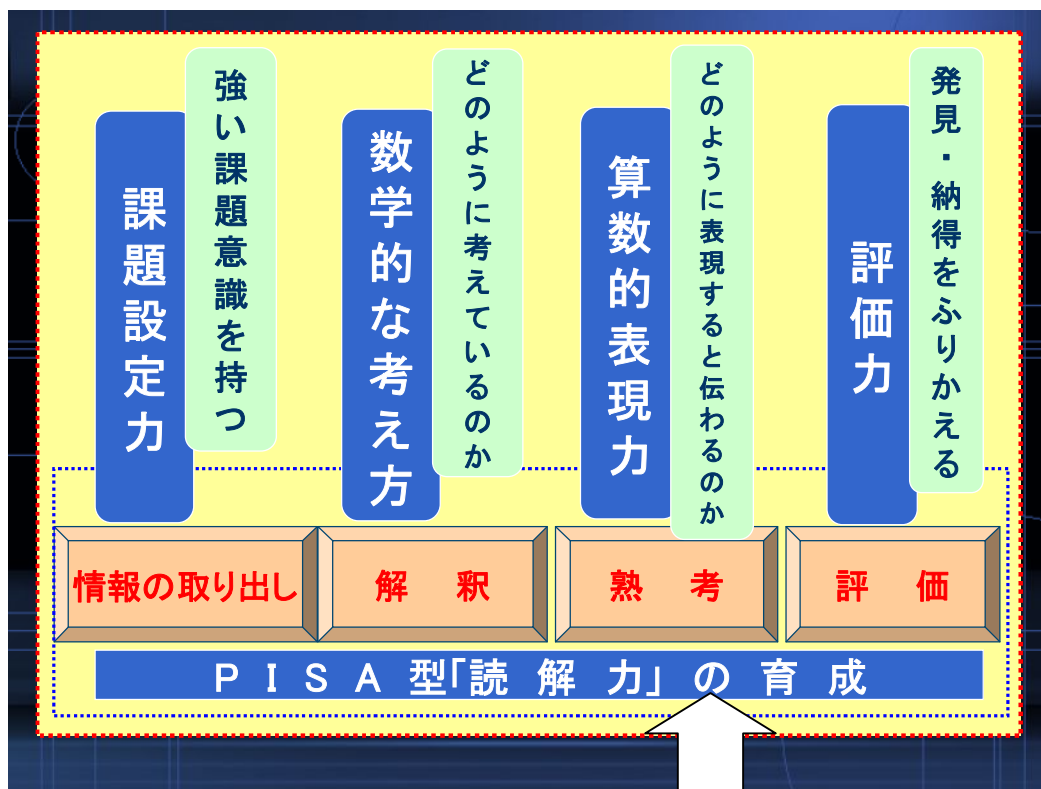
情報の取り出し

熟考

(4) 準備 教科書の写真や表、グラフの拡大コピー、教師作成のグラフ  
(5) 展開

6 年算数 「平均」	学習活動	配時	教師の働きかけと児童の反応	指導上の留意点 ◇支援 ◎評価と方法 ・表やグラフを使うと求める見通しがもてることを確認させておく。 PISA <情報の取り出し(表)> 一番多い日 一番少ない日 一週間の全体の量 日数 <熟考(グラフ)> 表との違いに気がつく。 量が見やすい。 10 以上より上にある。 少ない所へ多い所から動かすと平らになる。 ◎いくつかの量を公平に分けることに興味を持ち、そのやり方について自分なりの方法を見つけようとしている。(発言・観察) PISA<解釈・熟考> 教科書のグラフと比較検討する。 合計量は変わらない。 多い所から少ない所へ動かして平らにするのが簡単にはできない。 ならした量が変わらない。 ◇何を書いたらいいか悩んでいる
	1. 課題をつかむ	12	毎日同じ量をとれたとすると、1 日あたり何ccずつとれたことになりましたか。 <表を見ると、何がわかりますか> ・とれる量がバラバラだ。 ・一番とれた日や少ない日があるよ。 <グラフにしてみると、何がわかりますか> ・すぐに多い日や少ない日わかりやすい。 ・多い量から少ない量へ移してみるよ。 ・ならしてみると、15ccになったよ。 <b>ならした量のみつけ方を考えよう。</b>	
	2. 考えをもつ	10	合計量が一緒だが、各曜日のとれる量が大きく違うグラフを提示する。 <このグラフの世界では、どうやってならせばいいのかな> ・さっきのようにできないかな。 ・簡単にならすことができないなあ。 ・どうすればいいのだろう。 ・でこぼこしてるなあ。	

PISA 型読解力のプロセスを授業構成に生かし、取り入れました。



自分なりの考えを、どのように説明すると伝わるのかを工夫したり、友達の説明するイメージを共有化したりしていきながら解決に向かおうとする姿が授業の中で、でてくるようにする。  
(数学的コミュニケーションによる学び合い)